

土と基礎

平成20年8月号 第56巻第8号

地盤工学会誌

特集

環境リスク面から捉えた
廃棄物の地盤工学的利用Geotechnical Reuse and Recycling of Waste
Materials Based on Environmental Risks

●「地盤工学会誌」編集委員会

本号特集担当編集委員：土屋光弘（主査）

岡田 進	土居正信	堀 俊和
宮井隆利	山崎貴之	末政直晃
高橋英紀	藤岡一頼	

本号の編集にあたって

本号は「環境リスク面から捉えた廃棄物の地盤工学的利用」についての小特集号です。小峯秀雄先生を委員長として平成17～19年度に設置された「環境リスク面から捉えた廃棄物の地盤工学的利用に関する研究委員会」での研究活動の成果を報告していただきます。当委員会はテーマの特性から様々な専門分野のメンバーで構成され、他学会と共同でセミナーを開催するなど学会の枠を越えて活動された委員会です。

環境省の調査によれば平成17年度に我が国で排出された廃棄物の総量は、産業廃棄物が約4億2200万t、一般廃棄物が約5300万tという膨大な量です。また、最終処分量は廃棄物の再生利用や減量化の促進により減少傾向にあります。同年では約3100万tにも及んでおり、全国的に最終処分場の残余容量の逼迫は大きな問題となっています。既に関東や中部地区では最終処分場の確保は困難な状況にあり、廃棄物を地盤関連材料として適切に利用できれば循環型社会を構築する上で非常に有効であることは間違いありません。

多くの人が「廃棄物＝環境汚染」のイメージを持っているように、廃棄物を利用する場合には環境が破壊されず、当然ながら永続的に生態系や人体にも影響がないことが必要です。廃棄物は多種多様であり、利用先で廃棄物のおかれる環境条件も長期間に変化するかもしれません。様々な条件下での無害化・不溶化等の技術、無害であることの科学的証明が重要です。また、廃棄物の利用のためには、リスクコミュニケーションも大きな課題の一つです。住民との合意形成がなければ各種事業の実施が困難な時勢の中、無害であっても廃棄物という理解の得にくいものの利用に関してどのように情報を開示し、どのように住民や国民の理解を得るかも重要になります。

廃棄物の問題は我が国だけでなく、特に急速な発展を遂げている諸外国でも大きな社会問題になっています。国の内外を問わず、本号が循環型社会の構築に少しでもお役に立てば幸いです。

最後に、御多忙の中、本号に執筆いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

宮井隆利（みやい たかとし）

地盤工学会のホームページ URL <http://www.jiban.or.jp/>

国際地盤工学会ホームページ <http://www.issmge.org/>